

なりた ちえ こ  
成田 智恵子文化学部 助教  
博士(学術)／京都工芸繊維大学

ホームページ URL

なし

## 主な研究業績

- Y.Okahisa, C.Narita, T.Yoshimura, Resistance of wood coated with oriental lacquer (urushi) against damage caused by subterranean termite, Journal of Wood Science, 65 (1), 2019.
- C.Narita, Y.Okahisa, K.Yamada, A novel technique in the preparation of environmentally friendly cellulose nanofiber/silk fibroin fiber composite films with improved thermal and mechanical properties, Journal of Cleaner Production, 234, 200-207, 2019.
- Y.Okahisa, C.Narita, K.Yamada, Preparation of Silk-Fibroin Nanofiber Film with Native  $\beta$ -Sheet Structure via a Never Dried-Simple Grinding Treatment, Journal of Fiber Science and Technology, 75 (4), 29-34, 2019.
- C.Narita, Y.Okahisa, K.Yamada, Plasticizing effect of lignin on urushi in bio-composite films, Polymer, 161, 49-54, 2019.
- Y.Okahisa, Y.Furukawa, K.Ishimoto, C.Narita, K.Intharapichai, H.Ohara, Comparison of cellulose nanofiber properties produced from different parts of the oil palm tree, Carbohydrate Polymers, 198, 313-319, 2018.
- C.Narita, K.Yamada, Influence of the type of Urushi and substrate on the chemical and physical properties of Urushi films, Progress in Organic Coatings, 105, 183-189, 2017.
- C.Narita, Y.Shimode, K.Yamada, Influence of the finishing methods of Urushi products on degradation, Progress in Organic Coatings, 101, 379-384, 2016.
- 成田智恵子, 来田宣幸, 伝統工芸士の職業継続要因とスキル修得に関する研究, 応用心理学研究, 42 (2), 149-150, 2016.
- 成田智恵子, 下田祐太郎, 来田宣幸, 京都の時絵工房における持続可能なものづくりの在り方に関する事例研究—伝統工芸士へのインタビューを通じて—, 文化経済学, 12 (2), 22-37, 2015.
- 成田智恵子, 来田宣幸, 吉田浩之, 伝統工芸を志向する学生の意識調査, 身体運動文化論叢, 14, 127-149, 2015.

## 特許情報

- 特開 2019-189985, 機能性ファイバ製造方法、機能性ファイバ製造装置および機能性ファイバ
- 特許 5805339, 漆黒調積層体、及びその製造方法

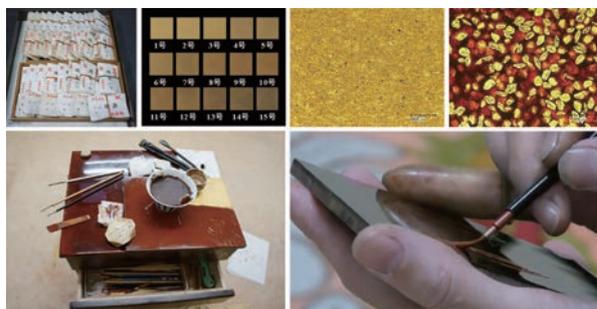
## 研究テーマ Research theme

京都の伝統工芸における  
社会・産業的実態の解明

## 概要 Overview

京都の伝統工芸における社会・産業的実態の解明を研究テーマとし、京都の伝統工芸に関する①需要の歴史的背景・主体、②材料・道具の特性や供給基盤、③技法や制作工程、④細分化された生産システムや流通システム、⑤手仕事に対する技能者の意識、⑥現代社会における意義などについて、様々な面から研究を進めています。そのため、文献調査やインタビュー調査などの定性的手法と、統計学、材料科学などの定量的な手法を組み合わせる学際的な研究を行なっています。また、研究におけるバイアスを防ぐため、「研究対象の問題の所在とは何であるのか?」という根本的な問いについても常にアプローチし続けています。

最近には特に伝統工芸の今を支える現代の職人たちの技能継承に対する意識や現状の顕在化に関する研究に注力しており、実際に京都の伝統工芸の工房に赴き、インタビュー調査を行なっています。伝統工芸の技能継承に関しては、修行期間の短縮化・効率化なども度々指摘されていますが、技能や知見といった目に見えないものを伝えることは困難を極めます。そのため、1つの観点からのみではなく、種々の方法の長所と短所を理解しながら、相互補完的な研究を行なうように心掛けています。また、各工芸で使用されている天然材料や道具、技法、工程の特徴については、伝統的なもののみを調査するのではなく、代替となる材料や道具、そしてその変遷に伴う技法や工程の変化を含めた調査を行なっており、平成時代そして令和時代の現状記録を進めています。



時絵調査写真

## 応用分野 Application areas

伝統工芸の資料を基にした社会的・観光的資源の作成  
ものづくりにおける技能継承

## 共同研究等へのニーズ Need for joint research

京都の伝統工芸の技能者や、伝統工芸の現状に関心のある専門家をはじめ、ものづくりの技能継承に携わっている方と共同研究ができればと考えています。また、観光関係者や学校関係者の方たちにも研究成果を社会的に活用して頂きたいと思います。